 Viet Nam	学校名：埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	
	氏名：吉田 大祐 [担当教科：地理歴史]	● 実践教科等：総合的な学習の時間 ● 時間数：5時間 ● 対象生徒：第二学年 ● 対象人数：284人

1 単元名

「日本人の幸福ってなんなの？」～ベトナムを通じて考える私たちの幸せ～

2 単元の目標

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ① ベトナムとの比較の中で、日本のSDGsの達成状況について理解するとともに、自分たちの生活や住む街と関連付けさせて、諸問題への当事者意識を養う。
【1批判的に考える力】【7進んで参加する態度】
- ② 日本が抱える諸問題を理解するとともに、多様な人々の幸福感を学ぶことで、自分自身の生き方について主体的に考える。
【1批判的に考える力】【2未来像を予測して計画を立てる力】【3多面的、総合的に考える力】
- ③ 学びの集団を変化させ続けるとともに、自分の考えをまとめ、共有する活動を全ての授業に設けることで、自分の考えをまとめる力、説明する力、他者と協働する力を養う。
【1多面的、総合的に考える力】【4コミュニケーションを行う力】【5他者と協力する態度】【6つながりを尊重する力】【7進んで参加する態度】

3 単元の指導について

(1)教材観

本校では、総合的な学習の時間の目標として、「1 自分自身の特徴を知り、その良さを生かす力を身に付ける」「2 将来を見つめ、自分自身の生き方を考える力を身に付ける」の2点を掲げている。本単元では、上記2点の目標達成の為、日本社会の特徴の理解、ベトナム社会の特徴の理解、日本とベトナムの比較を通して、自分自身の幸せ(生き方)について考えさせることを狙いとしている。

教材のテーマは、自分の考えの深化、共有、再検討である。SDGsや日本社会の諸問題、ベトナムの人々の生き方など、多様な情報を得たうえで、自身の考えを構築し、人に説明し、修正していく。一連の活動を通して、自分自身の幸福観を深めるとともに、人と関わり協働する力を養うことを目指す。

また、手法としては、埼玉県が推進する「知識構成型ジグソー法」をアレンジし、活用する。例えば、全8組のHRクラスごとに別々の資料を配り、混合クラスである総学グループで共有。その際に全12組の総学グループごとに別々の資料を配り、次の時間に体育館を歩き回って共有する。ジグソー法の活用によって、自分の資料や考えに対する責任感を持たせ、主体的に活動にさせるとともに、多様な人と関わり、情報や考えを共有する場を設定する。

(2)児童生徒観

対象生徒は、本校2学年の全生徒である。本校生徒の特徴の1つとして、多様性である。本校には、園芸デザイン科、情報処理科、普通科の3学科が併設されており、生徒は四年制大学、短大、専門、就職と多様な進路に進んでいく。つまり、普段の学習内容から将来の目標までひとくくりにはできない多様な背景を持った生徒が本校には在籍している。一方で、進路活動への積極的な取り組みや、他者とのコミュニケーションには課題を抱える生徒も少なくない。こうした課題を克服するため、総合的な学習の時間では、1学年時から、1組から8組が混合となる約24名の少人数の総学グループ(全12組)を設置し、クラスを越えた交流を促すとともに、個人の生き方や価値観をとらえ直すグループワークを行ってきた。よって、当該生徒たちは、クラスを越えた交流や自分自身の考えの発表やまとめには抵抗なく取り組むことが出来る。

(3) 指導観

本実践の特徴は、学びの形態が絶えず変化する点である。学びの形態は、主に3点ある。1つは、学年全体が体育館に集まり学ぶ形態(284名)。2つ目は、全8組のHRクラスで学ぶ形態(30名~41名)。3つ目は、全12組の各 HR クラス混合の総学グループで学ぶ形態(24~25名)である。よって、多様な生徒を対象とするのと同時に、12名の学年の教員にも協力して指導をしていただくこととなる。そこで、各授業どの教員でも指導ができるよう、普遍性があり、シンプルなテーマを設定することを心掛けた。また、学年全体での場面では、共有したテーマをもとに各担任の先生方を中心に活動に課題のある生徒に個別具体的な支援・指導をしていただくようお願いした。

4 評価規準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの課題、日本の諸問題、多様な幸福観を生徒同士で追求できる。 ・SDGsの課題、日本の諸問題、多様な幸福感について、自分の生活と結びつける技能を身に付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの課題、日本の諸問題、多様な幸福観について、関連性を考察し、そのアプローチに向けて多面的・多角的に追及している。 ・学んだことや自身の考えを、振り返りを通じて、言葉で表現することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの課題、日本の諸問題、多様な幸福観についての考察や考えをまとめたりしている。 ・相手に対して分かりやすい言葉で考えを伝えるように工夫することが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの課題、日本の諸問題、多様な幸福観について、知識を身に付けている。 SDGsの課題、日本の諸問題、多様な幸福観について、関連性を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での発言 ・グループ内での発言 ・ワークシートの記入状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での発言 ・グループ内での発言 ・ワークシートの記入状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での発言 ・グループ内での発言 ・ワークシートの記入状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での発言 ・グループ内での発言 ・ワークシートの記入状況

5 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	SDGs から国を見る(総学グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの観点から自分の住む地域をとらえ直す ・SDGsの観点から日本をとらえ直す ・SDGsの観点から日本とベトナムを比較する 	<ol style="list-style-type: none"> ① 夏休みの課題であった自分が撮ってきた身近なSDGsの写真を共有する ② 日本のSDGsの達成状況について、予想・確認する ③ ベトナムのSDGs達成状況と日本の達成状況について比較する
2	ベトナムを知る(学年全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムと日本とのつながりについて理解する ・ベトナムの人々の生活文化について理解する ・ベトナムの歴史について理解する 	<ol style="list-style-type: none"> ① ベトナムを学ぶ意義(日本とのつながり)について説明を受ける ② ベトナムの伝統・都市・交通・農村・日本との関係・歴史の6項目について、クイズ形式で出題し、グループで考える ③ 新聞記事を読み、本単元のテーマ「日本人の幸福ってなんなの?~ベトナムから考える私たちの幸せ~」について理解する
3	幸せのダイヤモンドランキング(クラス)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中の幸せに優先順位をつける ・グループで幸せの優先順位を共有することで、自分 	<ol style="list-style-type: none"> ① 内閣府の幸福度研究会が2011年に出した「幸福度指標(試案)」をもとにつくった9つの幸せの要素にダイヤモンドランキングで優先順位をつける

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

		の考えをとらえ直す ・自分のクラスに割り振られた幸せの要素エキスパート資料について理解する	② 4人程の小グループで共有し、個人のランキングを再検討する ③ 次回使用する1～8組(クラス)別々に用意された幸せの要素エキスパート資料を読み込み、内容をまとめる
4	幸せの要素(総学グループ)	・各クラスの幸せの要素エキスパート資料を共有する ・共有で得た情報をふまえて、自分の幸せの優先順位を再検討する ・自分のグループに割り振られた幸せのインタビューエキスパート資料について理解する	① 8クラス別々に用意されたエキスパート資料を共有する ② 個人のランキングを再検討する ③ 次回使用する1～12組(総学グループ)別々に用意された幸せのインタビュー資料を読み込み、内容をまとめ、自身にとっての幸せについて書く
5	幸せ散歩(学年全体)	・各グループのインタビュー資料を自ら歩いて共有・獲得していく ・自分自身の幸せについての考えもあわせて自ら歩いて共有・獲得する ・ベトナムの人々の幸せの対する考えについて理解する	① 究極の2択クイズで移動しながら回答する ② 体育館を個人で歩き回って、自分の持っていない資料を持つ人を探し、資料の内容と自分自身の幸せについての考えを共有する ③ ベトナムの人々の幸せについてまとめた動画を視聴する

6 授業事例の紹介

小単元名【幸せ散歩】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月11日(木)第6限

(イ)実施会場 体育館

(ウ)本時の目標

- ①自分自身の幸せについて言葉で説明できるようになること。
- ②自分自身が持っていない情報を自ら動いてとりにいく姿勢を学ぶこと。
- ③性別やクラス、学科をこえた人と交流し、個人の考えの違いを大切にすること。

(エ)指導のポイント

本時の授業では、体育館を1つの教室に見立てて学年全生徒284名に主体的に活動を行わせる。そこで、以下の3点が指導のポイントである

- ① 禁止事項を明確にし、安全を確保する。
- ② シンプルな指示を出し、学年生徒全員が理解できるようにする。
- ③ 音楽やワークを活用し、生徒自身が活動したいと思うような雰囲気をつくる。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
	導入	・本時の活動内容を把握する。 ・本時の注意事項を理解する。 ・合言葉(シンチャオとカモン)を練習する。 ・隣の人とペアをつくり、自分の資料・考えを共有する練習をする。	一斉	・各クラス二列で集合させる。 ・体育館履きは1～4組は体育館の右端に置く。5～8組は左端に ・パワーポイントで要点をまとめて説明する。 ・「幸せ散歩」を行うために、「活動」と「移動」の2つに分けて練習を行うことを説明する。 ・モデルの生徒を2人選び、前で実演してもらう。	・本時の活動の準備に積極的に取り組んでいる【関心・意欲・態度】(観察)

展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の際の注意事項について理解する。 ・4択の質問の回答を考え、自分の選んだ答えに応じた場所に移動する。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の際の注意事項について説明する。 ・A～Dのボードを持った教員が4ツ角に立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4択の質問に前向きな姿勢で取り組んでいる。【関心・意欲・態度】(観察)
展開②	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の資料番号を掲げ、自分が持っていない資料もっている人を体育館を歩き回って見つけ、内容・考えを共有する。 ・終了の時刻になれば、授業開始時の各クラス2列の隊形に集まる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・最初の3人はアルファベットグループ内で探すこと、残りは自由に探すことを伝える。 ・学年の教員が巡回し、生徒に支援を行う。 ・隊形の移動は制限時間を1分と明示し、集まったクラスから前から着席する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福観の共有に前向きな姿勢で取り組んでいる【関心・意欲・態度】(観察)(ワークシート)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のまとめの言葉とベトナムのひとにとっての幸せをまとめた動画から自身の幸福観を改めてとらえなおす。 			

(2) 授業の振り返り

参加した生徒たちは、趣味嗜好や能力に関わらず、全員が複数の生徒と資料及び自分の考えを共有することができていた。普段話さない生徒に自分から話しかけに行く生徒の姿も目立ち、人と関わり、自他の考えを共有し、学びを深めるといった本授業の狙いは概ね達成できたのではないかと考える。また、学びは生徒だけでなく参加した教員にもあった。生徒が予想外に主体的に活動する様子に驚き、自分自身の幸せについて考える機会になったという声が参加教員からあげられた。

一方で、課題としては想定不足による指示不足が多々でてしまった点である。やはり、学年全体284名を体育館で動かすとすると、教室で40名を動かす時では異なる問題がいくつか起きてしまった。座り込んでその場で書きだす生徒の扱い、複数で資料をまわしてしまう生徒の注意など、想定できていなかったことによる指示の不足から、司会をしていた自分自身が困惑する場面が多々出てしまった。自分自身でその場で対応できたもの、各先生方にフォローをしてもらったものもあったが、事前準備の徹底で改善できたものがほとんどであった。今後の課題としたい。

授業全体を振り返ると、細かい指示の反省はあるものの、ワークシートからは、生徒たち自身は資料・考えの共有活動に積極的に取り組んでいたことが読み取れる。最後に流した「ベトナムの人々の幸せ」についてまとめた動画に感動したと答える生徒も多く、生徒の価値観を揺さぶる機会になったのではないかと考える。

(3) 使用教材

① 幸せ散歩ワークシート(A3・1種)

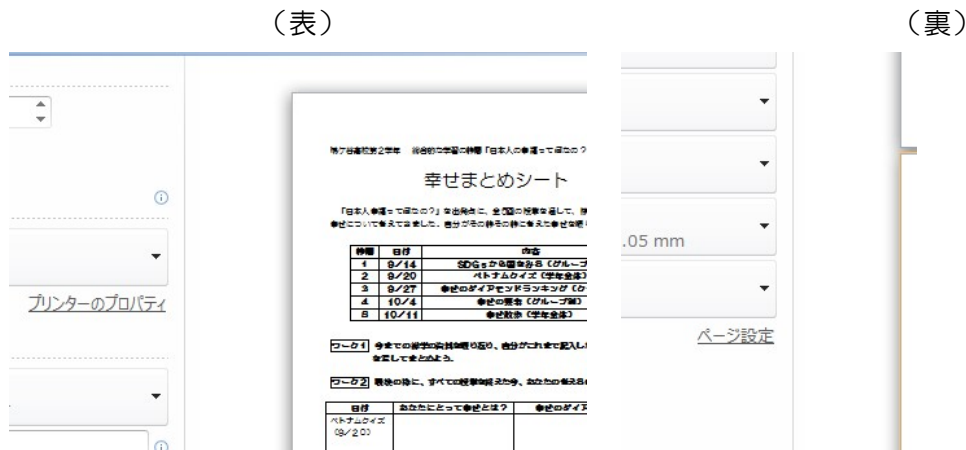
(表)

(裏)





③ 幸せまとめシート (A3・1種・授業後の宿題)



7 単元をととした児童生徒の反応/変容

・「あなたにとって幸せとは？」という質問に対する生徒の回答の変化

1人目

- ① (9/20)生きていられること。眠ること。
- ② (9/27)健康でお金がそこそこあって趣味を楽しんで家族や友達と良好な関係でいられること。
- ③ (10/4)寝る時間充分あって心身健康でいれて、趣味を思いっきり楽しめること。
- ④ (10/11)心身健康で家族や友達もいて、趣味も思い切り楽しめる…今の自分の生活のこと。

感想 人それぞれダイヤモンドランキングの優先事項が違って、面白いなと思いました。授業の初回の「あなたにとって幸せとは？」という質問に対しては、何を書けばいいのだろう、と悩んでいましたが、結局は今の自分の生活が一番楽しくて、充実して幸せなのではないか、という結論になりました。

2人目

- ① (9/20)笑顔でいること。
- ② (9/27)自分らしくいられること。
- ③ (10/4)自分らしくいられること。
- ④ (10/11)家族や友達と楽しく過ごせること。

感想 みんなそれぞれの幸せなどを知れて良かったです。私の幸せダイヤモンドランキングは最後まで1つも変わることがなかったので、このランキングがまさしく自分の幸せについて表しているんだなと思った。

3人目

- ① (9/20)仲間がいること
- ② (9/27)人に嫌われないこと。
- ③ (10/4)普通に生きること。
- ④ (10/11)普通に生きて、普通の人生を送りたい。

感想 授業の初めは、周りを気にしてコミュニケーションが大切だとか嫌われないことが幸せとか思っていました。しかし、クラス別の A~H の資料を話し合っ発表したり、最後の体育館で歩き回るのなんか、元同じクラスの友達や部活の友達や親友…。たとえ今は別のクラスだとしても、まだ私を友達だ

とっていてくれて、本当に嬉しかったです。周りをまだ気にしますが、「普通に生きる」という段階に
 いったもいいと思えました。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

<p>P (計画)</p>	<p>【海外派遣前】 ○「人とのつながり」は国際理解教育、開発教育、そして SDGsの根底にある考え方なので、総合的な学習の時間で学年全ての教員・生徒を巻き込んだ形態をとることを計画していた</p> <p>【海外派遣中】 ○「人とのつながり」が軸となる以上、普遍的でありシンプルな教材が必要であると考え、「あなたにとって幸せとは」という問いをベトナムの道行く人々に話しかけ、ノートに答えを書いてもらい、写真撮影を行い、教材化した</p> <p>【海外派遣後】 ○海外研修で得た様々な資料や経験全てを授業に活かしたいと考え、幅広い内容を包括するテーマとして、「幸せ」を設定した ○学年の全ての教員を巻き込み手段としてジグソー法の導入と、学年全体、HR クラス、総学グループと3つの学びの集団を組み込むこととした</p>
<p>D (実行)</p>	<p>○SDGs、ベトナムの社会、日本の社会の理解と比較から自分自身の「幸せ」について考える全5回の授業を実施した</p>
<p>C (検証)</p>	<p>○3つの学びの形態を導入することにより、学年の教員全員を巻き込むとともに、生徒自身に普段話すことのない人とのコミュニケーションを行う習慣と力を身に付けることが出来た</p> <p>○知識構成型ジグソー法を導入、アレンジすることにより、生徒一人一人に資料を共有する責任感と動機づけを植え付けることが出来た</p> <p>○「幸せ散歩」の指示が不徹底で、生徒の活動を停滞させてしまった</p> <p>○全参加教員がもっと関わる内容で、学びを生徒と教員がより深く共有できる取り組みが必要であった</p>
<p>A (改善)</p>	<p>○体育館での指示を修整する</p> <p>○教員も生徒と同じ活動を行い、幸せ散歩に参加する</p> <p>○生徒や教員の幸福観の変化をまとめた冊子を作成する</p>

9 教師海外研修に参加して

生徒以上に自分自身の価値観が揺さぶられる研修となった。それは、ひとえにJICA職員の方々がつくってくださった綿密な視察プログラムによるところが大きいと考える。環境、農業、産業、農村、教育等幅広い分野の視察が用意されており、自分の興味・関心のある分野や得意分野以外の事柄についても自然と考える機会をいただくことができた。また、そうした多分野からの学びを、自分と異なる視点をもった他校種・他教科の先生方と話し合うことで、より深めることができた点も大きい。本研修での10日間は、今までにない新しい気づきや葛藤に出会える10日間であった。この貴重な本研修での学びを勤務校の生徒に還元するのはもちろんであるが、県内・県外へも積極的に共有していきたい。そして、いずれは本研修の経験を活かして現職教員特別参加制度によって青年海外協力隊に参加し、生涯を通じ国際理解教育の推進に貢献できる教員となる。